

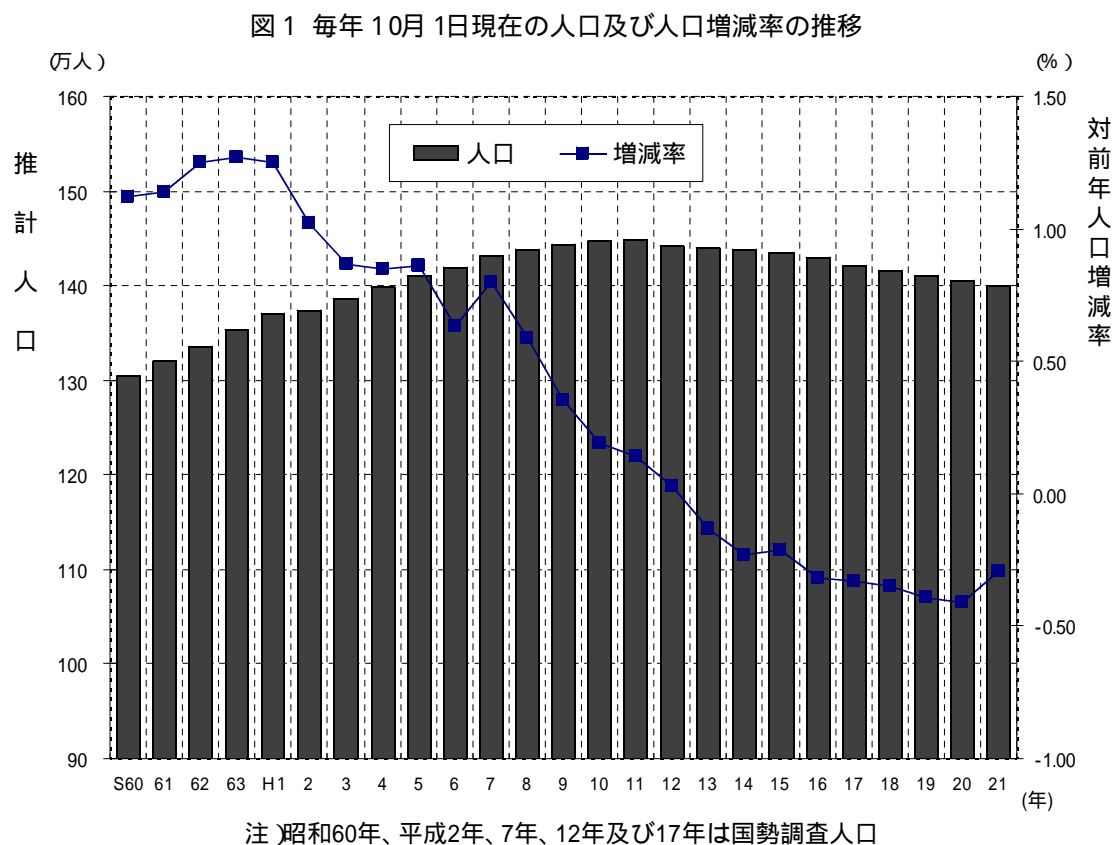
結果の概要

1 人口総数

奈良県の人口は、1,400,951人で10年連続の減少 (図1)

平成21年10月1日現在の奈良県の推計人口は1,400,951人(前年比4,123人(0.29%)減)で、平成12年以降10年連続の減少となっている。

また、大正9年の第一回国勢調査の人口は564,607人であり89年前と比べると約2.5倍になっている。(統計表付表1、40・41頁参照)



市部人口は、全体の78.9% (表1)

市部・郡部別にみると、市部が1,105,086人、郡部が295,865人で、市部が全体の78.9%を占めている。

市町村別の人口は、奈良市が365,470人で最も多く、次いで橿原市(124,495人)、生駒市(116,885人)の順となっている。

また、最も少ないのは、野迫川村(653人)で、次いで上北山村(710人)、黒滝村(896人)の順となっている。(統計表第1表、16・17頁参照)

表1 市町村別人口

	人口の多い市町村			人口の少ない市町村		
	市町村名	人口(人)	構成比%	市町村名	人口(人)	構成比%
1	奈良市	365,470	26.09	野迫川村	653	0.047
2	橿原市	124,495	8.89	上北山村	710	0.051
3	生駒市	116,885	8.34	黒滝村	896	0.06
4	大和郡山市	89,118	6.36	下北山村	1,113	0.08
5	香芝市	74,383	5.31	天川村	1,581	0.11

2 人口動態(自然動態及び社会動態)

1年間の人口増減数は、4,123人、増減率は0.29%(前年0.41%)で減少幅が縮少

(表2、表3、図2、図3)

平成20年10月1日から平成21年9月30日までの1年間の人口動態をみると、自然動態(出生及び死亡の動き)は1,303人(増減率0.09%)の減少、社会動態(転入及び転出の動き)は2,725人(同0.19%)の減少、さらに外国人が95人(同0.83%)の減少で、併せて4,123人(同0.29%)の減少となり、前年の増減率0.41%に比べ減少幅が縮少している。

また、人口動態を月別でみると、自然動態では平成21年6~9月に出生児数が死亡者数を上回っており、社会動態では人口移動時期である同年4月に転入者数が転出者数を上回っているが、その他の月はすべて死亡者数と転出者数が上回っている。

増減数	4,123人
— 自然増減	1,303人
出生	10,840人
死亡	12,143人
— 社会増減	2,725人
転入	29,059人
転出	31,784人
— 外国人増減	95人

表2 人口動態

(単位:人)

年次	人口	対前年増減数		自然増減		社会増減		外国人増減
			率(%)		率(%)		率(%)	
昭和61年	1,319,760	14,894	1.14	6,006	0.46	8,875	0.68	13
昭和62年	1,336,256	16,496	1.25	5,749	0.44	10,603	0.80	144
昭和63年	1,353,193	16,937	1.27	5,496	0.41	11,093	0.83	348
平成元年	1,370,135	16,942	1.25	4,946	0.37	11,997	0.89	1
平成2年	1,375,481	13,993	1.02	4,271	0.31	9,295	0.68	427
平成3年	1,387,442	11,961	0.87	4,192	0.30	7,067	0.51	702
平成4年	1,399,276	11,834	0.85	3,956	0.29	7,296	0.53	582
平成5年	1,411,258	11,982	0.86	3,721	0.27	7,994	0.57	267
平成6年	1,420,196	8,938	0.63	3,833	0.27	5,030	0.36	75
平成7年	1,430,862	11,326	0.80	3,561	0.25	7,546	0.53	219
平成8年	1,439,252	8,390	0.59	3,742	0.26	4,480	0.31	168
平成9年	1,444,340	5,088	0.35	3,432	0.24	1,547	0.11	109
平成10年	1,447,134	2,794	0.19	3,501	0.24	876	0.06	169
平成11年	1,449,138	2,004	0.14	2,725	0.19	630	0.04	91
平成12年	1,442,795	475	0.03	2,852	0.20	2,337	0.16	40
平成13年	1,440,920	1,875	0.13	2,590	0.18	4,969	0.34	504
平成14年	1,437,611	3,309	0.23	2,149	0.15	5,380	0.37	78
平成15年	1,434,576	3,035	0.21	1,252	0.09	4,212	0.29	75
平成16年	1,429,969	4,607	0.32	960	0.07	5,698	0.40	131
平成17年	1,421,310	4,740	0.33	359	0.03	4,643	0.32	262
平成18年	1,416,323	4,987	0.35	288	0.02	4,627	0.33	72
平成19年	1,410,825	5,498	0.39	435	0.03	5,091	0.36	28
平成20年	1,405,074	5,751	0.41	1,309	0.09	4,440	0.31	2
平成21年	1,400,951	4,123	0.29	1,303	0.09	2,725	0.19	95

平成2・7・12・17年の人口は国勢調査確定値であり、増減数(増減率)とは一致しない。

表3 月別人口動態

(単位:人)

年 月	増減総数	自然動態			社会動態			外国人 増減
		出生	死亡	自然増減	転入	転出	社会増減	
平成20年								
10月	35	984	1,014	30	2,236	2,287	51	46
11月	309	842	976	134	1,568	1,757	189	14
12月	282	825	1,009	184	1,817	1,885	68	30
平成21年								
1月	673	1,016	1,410	394	1,895	2,058	163	116
2月	702	825	1,023	198	1,852	2,382	530	26
3月	1,558	947	1,103	156	5,285	6,674	1,389	13
4月	753	854	978	124	4,849	4,050	799	78
5月	606	763	927	164	1,754	2,148	394	48
6月	100	965	944	21	1,935	2,088	153	32
7月	68	955	906	49	2,054	2,149	95	22
8月	158	934	924	10	1,987	2,098	111	57
9月	385	930	929	1	1,827	2,208	381	5
計	4,123	10,840	12,143	1,303	29,059	31,784	2,725	95

図2 月別自然動態

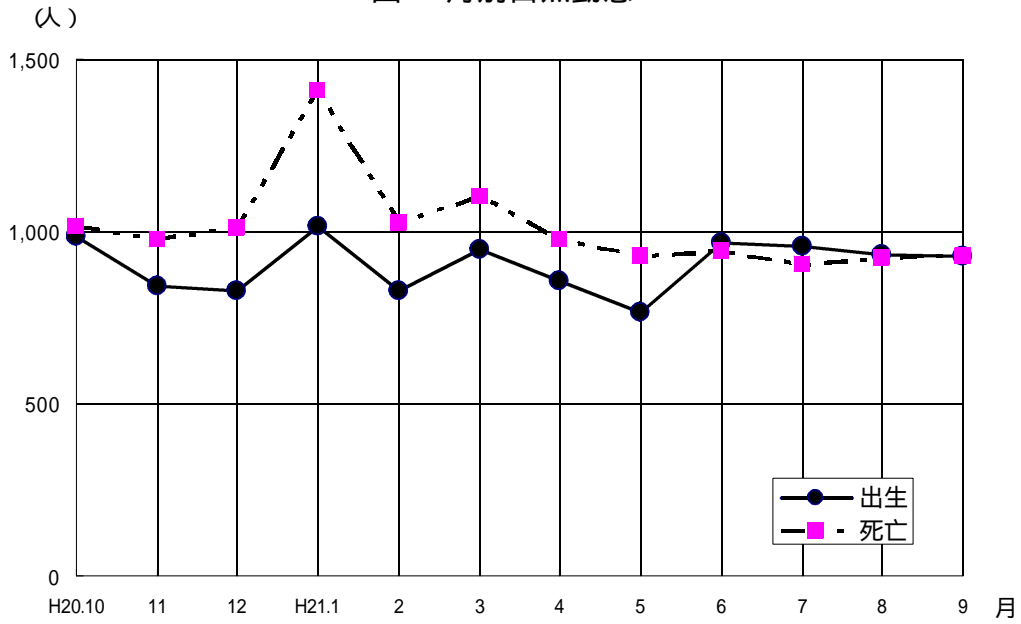
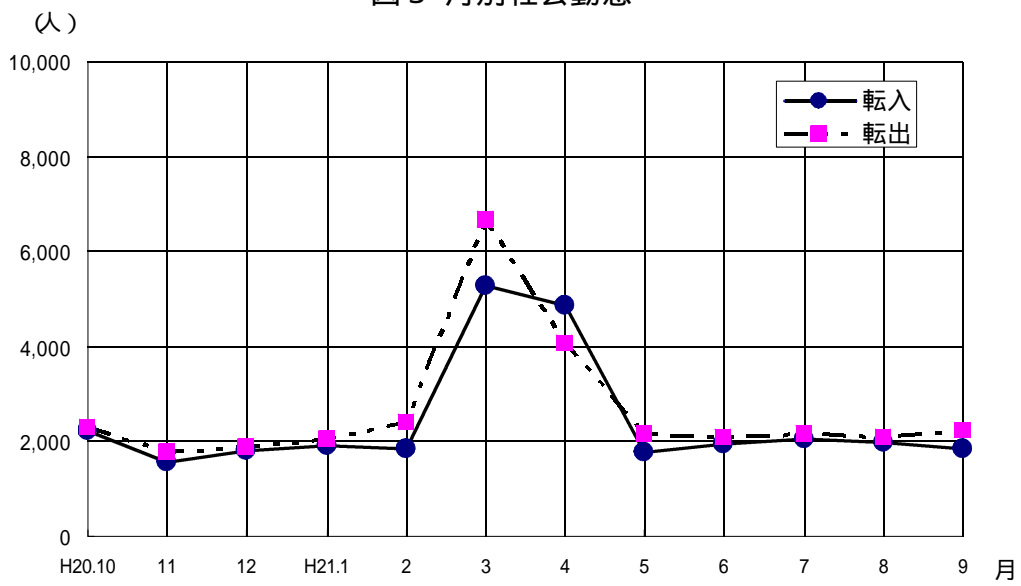


図3 月別社会動態



人口増加数は生駒市が1,003人で最多 (表4)

この1年間で人口が増加したのは6市町、減少したのは32市町村、増減が無いのは1村であった。

1年間の人口減少数4,123人のうち、市部が1,782人の減少、郡部が2,341人の減少となっており、郡部の減少が著しい。

また、市町村別にみると、増加数が多いのは生駒市(1,003人)、香芝市(947人)、葛城市(129人)の順で、減少数が多いのは奈良市(870人)、宇陀市(601人)、御所市(459人)の順となっている。(統計表第1表、16頁参照)

表4 市町村別人口増減数

	増加数の多い市町村		減少数の多い市町村	
	市町村名	増加数(人)	市町村名	減少数(人)
1	生駒市	1,003	奈良市	870
2	香芝市	947	宇陀市	601
3	葛城市	129	御所市	459
4	広陵町	89	五條市	455
5	斑鳩町	67	大和郡山市	435

人口増加率は香芝市が1.29%で最高 (表5、図4)

市町村別の人口増加率は香芝市が最も高く、1.29%であった。

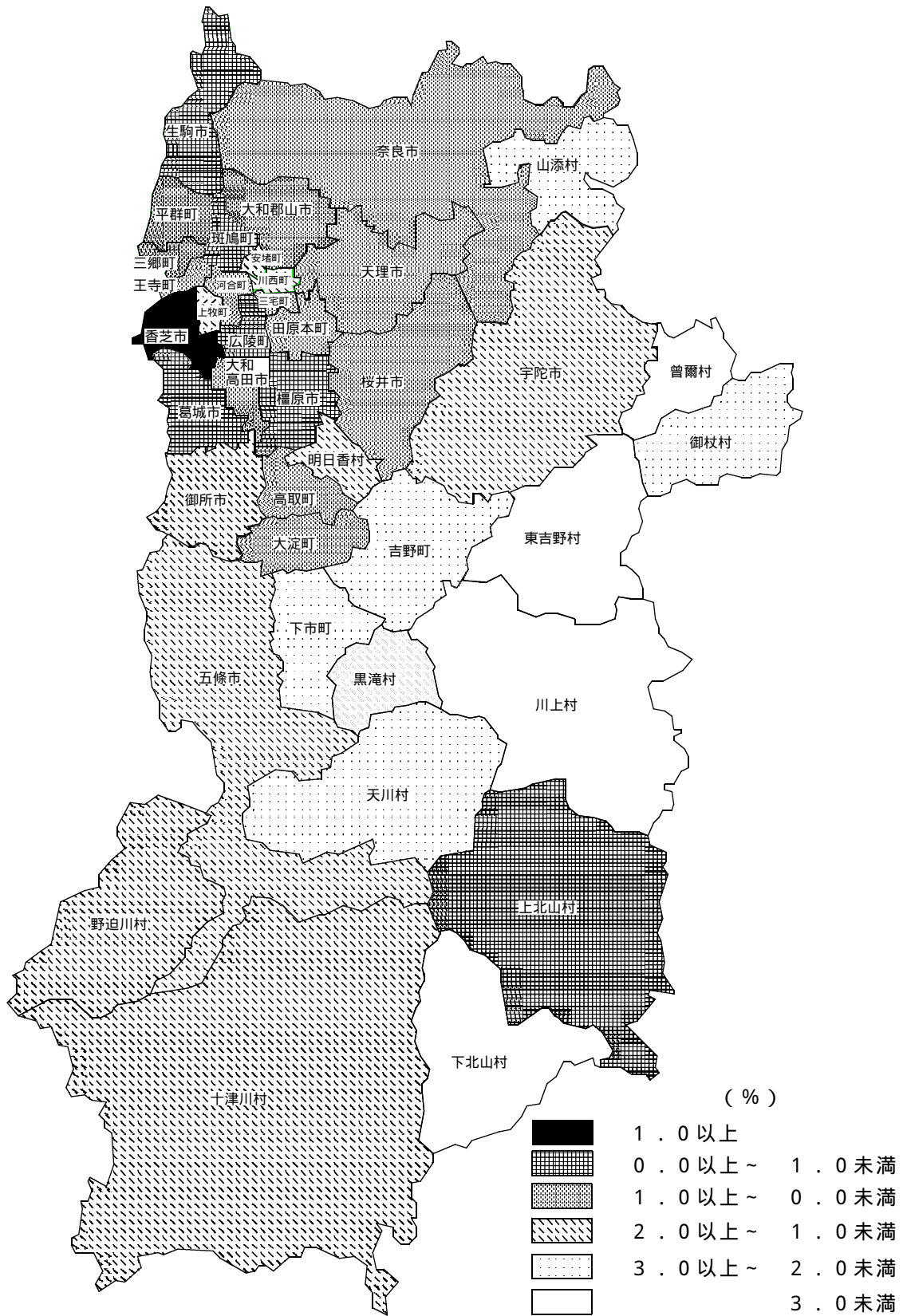
次いで生駒市(0.87%)、葛城市(0.36%)となった。

また、減少率が最も高いのは、黒滝村(4.98%)で、次いで下北山村(4.22%)、東吉野村(3.79%)の順となっている。(統計表第1表、16・17頁参照)

表5 市町村別人口増減率

	増加率の高い市町村		減少率の高い市町村	
	市町村名	増加率(%)	市町村名	減少率(%)
1	香芝市	1.29	黒滝村	4.98
2	生駒市	0.87	下北山村	4.22
3	葛城市	0.36	東吉野村	3.79
4	広陵町	0.27	曾爾村	3.71
5	斑鳩町	0.24	川上村	3.26

图4 市町村別人口増減率



3 人口密度

人口密度は、大和高田市が4,165.4人 / Km²で最高 (表6、図5)

奈良県の人口密度(1平方キロメートル当たり人口)は379.5人であった。そのうち、市部が868.6人、郡部が122.3人となっている。

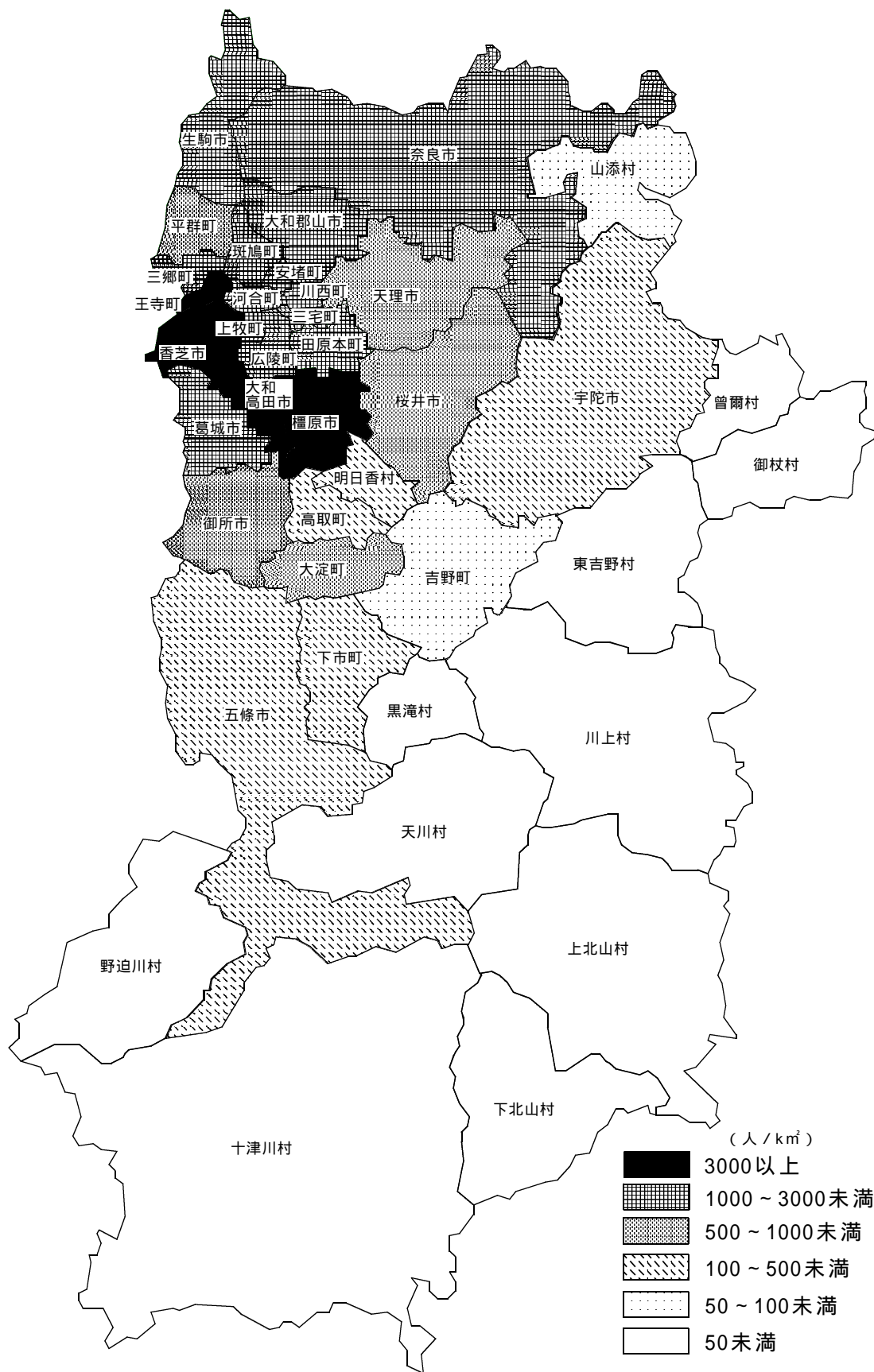
市町村別では、最も高いのは大和高田市(4,165.4人)で、次いで上牧町(3,905.9人)、王寺町(3,158.3人)の順となっている。

また、最も低いのは上北山村(2.6人)で、次いで野迫川村(4.2人)、十津川村(6.0人)となっている。(統計表第1表、16・17頁参照)

表6 市町村別人口密度

	人口密度の高い市町村		人口密度の低い市町村	
	市町村名	人 / km ²	市町村名	人 / km ²
1	大和高田市	4,165.4	上北山村	2.6
2	上牧町	3,905.9	野迫川村	4.2
3	王寺町	3,158.3	十津川村	6.0
4	橿原市	3,150.2	川上村	6.3
5	香芝市	3,069.9	下北山村	8.3

図5 市町村別人口密度



4 人口性比 (女子 100人に対する男子の数)

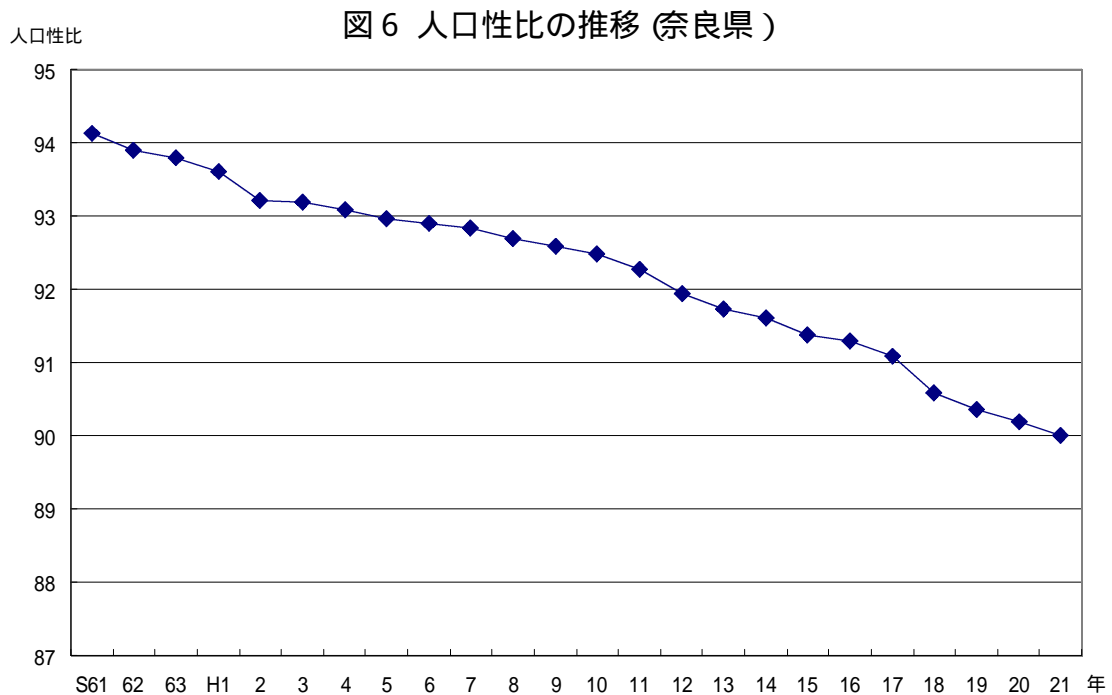
人口性比は 90.01 で、昭和 62 年以降 23 年連続で減少 (図 6)

奈良県の男女別人口は、男子 663,659 人、女子 737,292 人で、女子が男子より 73,633 人多い。

人口性比は 90.01 で、昭和 61 年に 94.13 を示した後、昭和 62 年以降 23 年連続で減少が続いている。

また、市町村別にみると、人口性比が高いのは、十津川村 (106.11)、野迫川村 (105.35)、天理市 (95.75) の順で、低いのは、御杖村 (85.24)、御所市 (86.91)、吉野町 (87.14) の順となっている。

(統計表第 1 表、16・17 頁参照)



5 世 帯

世帯数は561,651世帯で増加を続けているが、1世帯当たりの人員は2.49人で年々縮小傾向

(図7)

平成21年10月1日現在の世帯数は561,651世帯で、前年と比べ5,322世帯(0.96%)増加した。

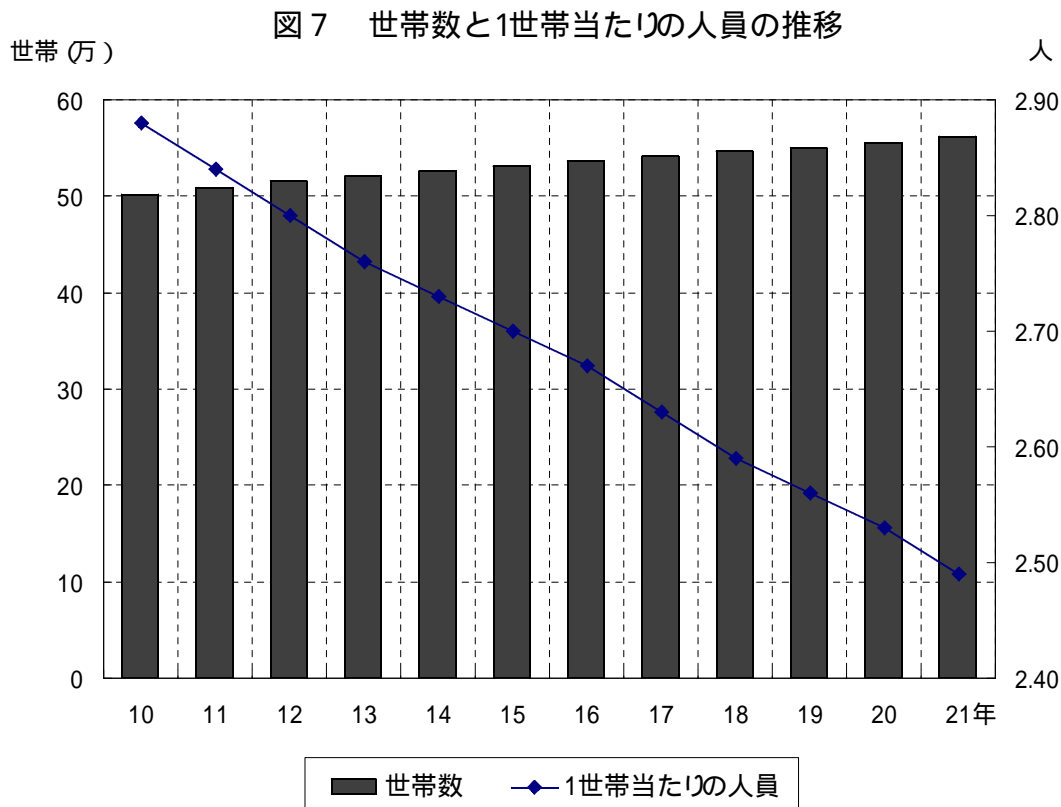
一方、1世帯当たりの人員は2.49人で、前年と比べ0.04人の減少となった。

このように、人口総数は平成12年以降連続して減少している中で、世帯数は増加を続けているが、世帯規模は年々縮小している。

1世帯当たりの人員を市町村別にみると、山添村が3.15人で最も多く、次いで広陵町(2.98人)、明日香村(2.79人)、田原本町(2.75人)、葛城市(2.75人)の順となっている。

また、最も少ないのは、下北山村(1.70人)で、次いで川上村(1.79人)、上北山村(1.95人)、十津川村(2.001人)、東吉野村(2.002人)の順で、吉野郡内の町村が続いている。

(統計表第5表、24頁参照)



6 社会動態 (県外移動)

県外移動者数は、12年連続の転出超過(2,725人)で、移動前・移動先とも大阪府が最多

(図8、表7)

この1年間に、県外から本県へ転入して来た人は29,059人、本県から県外へ転出した人は31,784人であり、差し引き2,725人の転出超過となっている。

また、本県では昭和40年に調査が始まって以来転入超過が続いていたが、平成10年からは12年連続で転出超過となっている。

全国ブロック別移動状況では、移動前・移動先ともに近畿ブロックが最も多く、都道府県別にみると、移動前では大阪府(9,994人)、京都府(2,456人)、兵庫県(2,011人)の順で多く、移動先では大阪府(9,950人)、京都府(3,131人)、兵庫県(2,367人)の順となっている。

(統計表第8表、30頁参照)

図8 全国ブロック別移動状況

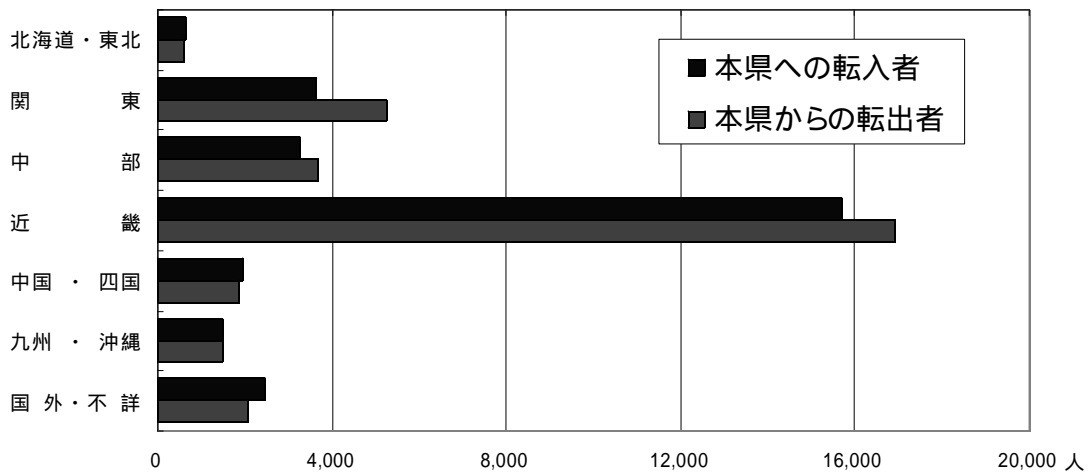


表7 都道府県別移動状況(上位10都道府県)

	本県への転入			本県からの転出		
	都道府県名	人数(人)	構成比(%)	都道府県名	人数(人)	構成比(%)
1	大阪府	9,994	34.39	大阪府	9,950	31.31
2	京都府	2,456	8.45	京都府	3,131	9.85
3	兵庫県	2,011	6.92	兵庫県	2,367	7.45
4	東京都	1,417	4.88	東京都	2,293	7.21
5	三重県	1,069	3.68	愛知県	1,246	3.92
6	愛知県	993	3.42	神奈川県	1,152	3.62
7	神奈川県	835	2.87	三重県	1,146	3.61
8	和歌山県	655	2.25	千葉県	820	2.58
9	千葉県	580	2.00	和歌山県	724	2.28
10	滋賀県	573	1.97	滋賀県	722	2.27

7 市町村別にみた社会動態

6市町村が転入超過、33市町村が転出超過 (図9)

社会動態 (2,725人) を市町村別にみると、県内移動と県外移動を併せた総数で6市町村が転入超過、33市町村が転出超過となっている。

転入超過数の多いのは、生駒市 (818人)、香芝市 (597人)、葛城市 (94人) の順で、転出超過数の多いのは、奈良市 (691人)、天理市 (395人)、大和郡山市 (383人) の順となっている。

(統計表第2表の1、18・19頁参照)

